

悠久 10周年特集号

第31号



雲南省麗江 トンパ文字博物館

本号の内容

| | | | |
|--------------------------|----------------------|----------------------|-------|
| ① 協議会設立10周年 | 岡山県日中教育交流協議会 | 会長 | 岡田浩明 |
| ② 回顧録－「岡山県日中教育交流協議会」発足の頃 | 岡山県日中教育交流協議会 | 特別顧問 | 森崎岩之助 |
| ③ 回顧録－「忘れられない2005年」 | 岡山県日中教育交流協議会 | 特別顧問 | 黒瀬定生 |
| ④ 記念講演「日中医療福祉そして教育の交流」 | 社会福祉法人旭川荘 | 名誉理事長 | 江草安彦 |
| ⑤ 祝 岡山県日中教育交流協議会設立10周年 | 上海市人民对外友好協会 | 日本処長 | 王加新 |
| ⑥ 貴重な国際文化交流事業 | 岡山県高等学校芸術文化連盟 | 会長 | 赤堀元美 |
| ⑦ 上海と岡山に架ける橋 | 岡山県日中教育交流協議会 | 会長 | 岡田浩明 |
| ⑧ 年表で見る十年 | ⑨ 日中教育交流に関する実態調査統計資料 | ⑩ 協議会事務局からのお知らせ（事務局） | |

March
2010

協議会発足十周年



岡山県日中教育交流協議会 会長

岡田 浩 明

岡山と中国との教育交流及び青少年交流を促進し、日中友好を発展させることを目的とする『このよう
な趣旨のもとに、平成十一年三月、岡山県日中教育
交流協議会が設立され発足十周年を迎えた。』

当協議会設立のきっかけは、社会福祉法人旭川荘
名誉理事長で上海市榮譽市民に推戴されている江草
安彦先生からの、「これからは青少年の交流が是非必
要」という呼びかけである。江草先生をはじめ県内
各界の有志が発起人となって教育関係団体等で組織
される当協議会が発足し、初代会長には、当時岡山
県生涯学習センターの所長であり、会の設立に尽力
された森崎岩之助先生が就任された。

当時は、日中平和友好条約締結二十周年を記念し
て江沢民国家主席が来日し青少年交流のための協力
計画が調印され、本県では、岡山県と江西省をはじ
め多くの市町村が中国各都市と友好関係を結んでい
た。岡山と上海の定期航空便も開設され、学校でも
修学旅行や交流活動を実施するなど、交流促進の機
運が高まっていた時機である。

当協議会は、発足以来、中国の教育事情や交流等
について情報を提供すること、交流の仲立ちをする
こと、教育事情視察のため訪中団を派遣することの
三つの事業を続けてきた。

平成十二年二月創刊の会報『悠久』は、年三回発
行して県内全ての小中高高等学校等に配付し、この特
集号が第三十一号となる。交流の仲立ちでは、岡山
県高等学校芸術文化連盟と上海市甘泉外国語中学と

の交流などがあり、教育事情視察については、ほぼ
毎年、上海を中心に調査団を派遣している。

また、平成十七年から二十年までの四年間、
「STUDENT EXCHANGE in 上海」と名付けた青年
交流を、財団法人福武教育文化振興財団の委託に
より、上海市新中高級中学と県内の公募で選ばれた
高校生との間で実施した。この交流は、平成二十二年、
大連に所を移し実施する事となっている。

この十年間、歴史認識問題や教科書問題、SAR
Sや新型インフルエンザなど、日中間には、会の運
営にも関わる大きな出来事も発生している。厳しい
時代の中でこのような活動を続けてこられたのは、
会の創設や運営に関わっていただいた多くの方々、
財政支援をしていただいた方々、岡山県教育委員会
等行政機関、そして上海市人民対外友好協会など中
国の方々のご支援とご尽力のお陰であり、厚くお礼
を申し上げたい。

設立十周年を機に実施した日中の教育交流に関す
る調査では、交流を行っている学校等が十年前より
大きく減少しているという実態も見られる。

会報『悠久』の名のごとく、次代を担う青少年の
育成は息の長い取り組みが必要であり、私たちに課
せられた使命でもある。多くの方々の当協議会に寄
せられる熱い思いを受け止めながら、確たる歩みを
続けていきたいと考えている。引き続き、ご理解と
ご支援を賜りたい。

「岡山県日中教育交流協議会」 発足の頃



特別顧問
森 崎 岩之助

一九九八年春、江草安彦先生から突然自宅へ電話を頂いた。電話の趣旨は、「最近上海への往復で使う福岡―上海便では九州の中学生や高校生をよく見かける。彼らに聞いてみると中国の中高生との交流が盛んに行われるようになったらしい。国際化の進む中で岡山県も隣国中国との交流は大切である。岡山空港から上海への定期便が飛ぶことになったこの機会に、青少年の日中交流を支援する活動を始めよう」とのお誘いであった。丁度その頃、江草先生が上海市の福祉分野での顕著な功績により「上海市榮譽市民の称号の授与」というお目出度いニュースも伝わっていた。

岡山と中国との教育交流を進めるに当たって、その目標や組織や経費等の基本的な準備を進めるべく協力者に声を掛けていた。そのような時、江草先生の「私が案内するから取りあえず上海へ行こう。そして上海市の関係者と会い、受け入れについてどのような団体が協力し、どのような活動が可能なのかを確かめて来よう」とのお言葉に従い、一九九八年十二月江草先生の案内で上海市対外友好協会、上海市教育委員会等を訪ねた。人口千数百万人の大都市上海市ではあるが、上海市榮譽市民の江草先生を歓迎してそれぞれ幹部の方々が対応され、十分な対応を約束して頂くことができた。それを受けて中高生が訪問したときのホテル・学校等を視察し、病気や怪我の緊急時に対応する病院の受け入れ等も確認できた。

特に私は、視察した第二外国語で日本語を学習している生徒が多くいて日本語で気軽に交流出来るような「甘泉中学校」と、英語でなければ会話が出来ないが校内に国際交流で訪れる訪問者のための宿舎を持つ「新中高級中学校」の二校が岡山の中高生との交流校にしたい学校として強く印象づけられた。

甘泉中学校では、早速岡山からの多くの交流校がお世話になり、訪問者のご協力で岡山から運んだ日本語図書が二〜三年後には二〇〇冊を超えて「岡山友好図書館」が出来た。それに対し交流計画が中々進まなかった新中高級中学校でも五年程遅れたが福武教育文化振興財団の多額の支援を頂き、全県から高校生を公募して本会がお世話をする形で英語による交流も実現し、当初目指した交流が予定どおり進み、大きな成果を挙げつつある事は嬉しい限りである。

江草安彦先生は勿論、当時福武教育振興財団理事長であった谷口澄夫先生のご指導を頂き、教育界は勿論経済界の幹部の皆様も協力も得て一九九九年三月十三日岡山と中国との教育交流及び青少年交流を促進し、日中友好を発展させる事を目指して岡山県日中教育交流協議会を設立した。

そしていま、本会は未来を担う青少年を中心に学校や教職員など教育関係者の様々な日中交流の支援を続け、目出度く創立十周年の記念の年を迎えることが出来た。

回顧録

「忘れられない2005年」

特別顧問
黒瀬 定生



はじめに

私が会長を務めたのは、平成十四年五月から平成十八年五月までの四年間である。会報「悠久」は計画通り発行し、多くの教職員に読まれた。上海への教育視察もサーズウイルス感染症の発生で中止した年もあったが、平成十六年度には中国教育視察の希望者が多く、二回に分けて行った。参加者は上海の発展ぶりに驚くと共に、親身にお世話いただいた上海市人民対外友好協会の方々、丁寧な対応をしていただいた訪問校の先生方に感謝し、多くの事を学び大感激であると喜んでいたのである。

平成十七年（二〇〇五年）

この年は高芸連の二回目の国際文化交流事業と、福武教育文化振興財団の委託事業で日中教育交流協議会がプログラムを組んだ高校生の交流事業「STUDENT EXCHANGE in 上海」(略SEIN上海)が初めて実施されようとしていた。

この年の春、全国各地で、歴史認識問題、教科書問題等で反日デモが起きた。四月十六日には上海でも起こり、外務省は渡航注意の情報を発した。岡山県でも多くの団体旅行や高校生の修学旅行等が中止された。高芸連も訪問を危惧していた。

急遽上海視察

しかし、平成十六年までの上海関係者の親切な対応ぶりから、反日的な感じを受けた事は一度もなく、このような事態が信じられなかった。

五月十六日、アジアコミュニケーションズの松井社長と急遽上海に渡り、市内の治安状況を肌で感じるとともに、交流予定校の上海市甘泉中学と新中高級中学の関係者から現状や交流の可否を尋ねた。いずれの関係者も、我々はそのような感情は持っていない。是非交流事業を成功させようとのことであった。

帰国後、交流する高芸連合唱部や「SEIN上海」に参加する生徒と保護者に上海の状況を話した。この年、

合唱部の相互交流は成功裏に終わった。六月には中国教育視察も有意義に行うことが出来た。

初め頃の「SEIN上海」

この交流事業は新中高級中学のゲストハウスに宿泊し、コミュニケーションは英語で、英語、習字、中国舞踊等の模擬授業を中国の学生と一緒に受けたり、学校生活や将来の夢等について話し合い相互理解と友好を深めようというものである。

新中高級中学は上海きっての大規模進学校である。交流事業に参加した中国高校生の英会話力は日本の生徒より数段上であった。

三泊四日の交流を終え、観光に出かけるバスの中で、多くの生徒が観光より学校でもっと交流したいと言っていたのが印象的であった。

生徒の感想

欧米に比べ情報の少ない中国の高校生と意思の疎通を図る事ができたこと。中国高校生の生活が学校であれ家庭であれ、自分たちの生活とあまり変わらないことを知り親しみが増したこと、中国の友人が出来たこと、等に喜びを感じ、また、彼らが自分の生き方についてはっきりとした意見を持っていることに感心していた。

そして、もっと日本について学び外国人に伝えることが出来るようになりたい、もっと外国のことが知りたい、英語が国際語であることの認識を二層深めた、国際社会で働きたい、等々の感想があった。

福武教育文化振興財団に感謝

忙しい一年であったが、今でも、当時の生徒達の元気で生き生きとした姿が思い出され、この交流事業を企画・実施できたことの喜びが沸き上がってくる。事業委託をいただいた福武教育文化振興財団に厚く感謝申し上げる次第です。今後、交流地が変更されるようですが、十分研究され、若者の心につまんでも残り、彼らの将来の生き方にも影響するよう交流事業が実施されることを願っております。

「日中医療福祉そして教育の交流」



江草安彦氏

旭川荘名誉理事長 江草安彦

本講演会の記録は、昨年十一月二十八日、岡山生涯学習センターで開催された江草安彦先生の講演に基づき、当方で記録し要旨をまとめたものです。

(文責：編集委員会)

私が中国に出掛け始めて約二十年がたちます。先日、上海で国際問題を担当する副市長から、こんなことを言われました。

実は上海と大阪、上海と横浜が日本での友好都市で、もう少し広げると韓国の釜山、ソウル。それだけの姉妹都市があるのだけれど、交流といっても二、三回行き来して交流というのが大部分。二十年というのは空前絶後である。

そして「先生は今日で上海にお越しになるのは九十六回目です。百回目には盛大にお祝いしましょう。いっつになりますか」とおっしゃる。それ程、深い友情を感じて頂いているんです。当方も同じです。

上海には、皆さんのご存知の甘泉中学があります。外国語として日本語をやっています。訪問しましたら、私が岡山だということをよく知っていますから、女の子が浴衣姿で歓迎の踊りをやってくれるんです。

その踊りがなんと下津井節、どこで覚えたのか、やるもんですね。そ

の時、何か変だとよく見ると、浴衣の着方（襟の合わせ方）が反対。葬式の時の着方なんです。そこで上海に駐在する企業の奥さま方にお声を掛けて、着物の着方、お茶の点て方を教えることになって、在留日本人との新しい交流が始まったのです。

その甘泉中学から日本語の書籍が欲しいとの依頼がありました。そこで、中央図書館にお願いして、廃棄処分にする本や複数で贈呈を受けた本など、集めたら七百冊。それから旭川荘の職員に呼び掛けて「差し上げてよい本があったら」と話すと七百冊程集まりました。計千四百冊。本は重いから相応な輸送費です。そこで上海に飛んでいる東方航空にお願いしたらタダにしてくれました。次は上海税関です。「お金を払え」。仕方ないから上海市に行って、幹部に話したらなんとかやってくれました。

甘泉中学に行かれた方はご承知でしょうが、二十畳くらいの部屋にびっしり日本語の本が並んでいます。

上海の中学校で一番たくさん日本語の本を持っているのは甘泉中学です。やればできるもんですよ。

私はある時、県教育長だった森崎岩之助先生に「日中友好の基礎となるのは、子供と子供が付き合うこと、先生と先生が付き合うことじゃないですか」と申し上げました。

なぜ私がそう申し上げたか、それは昭和四十一年、フランスに勉強に行っていた時の経験があるからなんです。

留学したのはパリ大学の付属病院でした。子供の神経精神病院があるのです。そこに住み込みで生活しました。病院長は、整形外科医でもあるヒンデルマイヤー教授（以後、ヒ教授）でした。

入院してくる患者さんの中には、アラブ出身の子供がかなりいます。中近東や北アフリカから来ており、言葉はアラビア語、習慣もキリチがどんどん増えてきた。

そうしたところ、ヒ教授は「あの人がフランスを理解せよというのが良いのか、われわれがアラブを理解する方が良いのか」と職員に問い掛けるのです。すると、医師も看護婦も皆「当然、われわれが理解すべきだ。なぜなら、逃れてきた人に対し、逃れてきたという重荷がある上に、更にフランスに同化せよというのはおこがましいのではないか」というのです。

朝、六時半ごろから食堂で朝食を取るのですが、食べ終わったころになるとホールがいっぱいになる。それはアラブの言葉や習慣を覚えるための勉強をするためです。医者や看護婦が一時も早出してきているんです。早出手当を誰も出せとは言わなかったそうです。

それに二つ目は、夏休みの話です。ドイツから子供たちが自転車に乗ってフランスへ遊びに来るのです。フランス人の子供も自転車です。どこかの教育委員会が音頭を取ってやっているんじゃない自然発生的なんです。

ヒ教授自身、独仏国境のアルザスローレン地方のストラスブル出身なんです。そこは戦争がある毎に取ったり取られたり、常に激戦が行われた地域です。少年時代はドイツ人だったのに、戦争が済むとフランス人になった、じゃなくならされた！こんなところなんです。

旭川荘の四十周年の時にお祝いに来てくれて、私に持って来てくれたプレゼントは薬きょうを組み合わせた

て作った十字架でした。少年時代に自分が拾い集めたもので、自分が作ったと言っていました。とにかく「平和は子供が交流するところから始まる」ということでした。

こんな交流が今日のEUの基礎となったとも言えるのです。

そして三つ目です。一年間の研修が終わって帰国の準備をしていた時のことです。ヒ教授は夫妻で私を招待して下さいました。鴨料理の大吉そうで、帰り際に「奥さんへのお土産」としてペアの時計までプレゼントされました。

先生は「一年間、たいへん厳しかったと思う。あなたはわれわれのやっている仕事を見て多くのことを感じただろう。いずれにせよ帰ったら立派に仕事をやってもらいたい。そのためにお役に立てたらわれわれも非常に嬉しい」とおっしゃいました。

私は、研修を堪能することができ、ほんとうに良かった、満足している、国に帰ったら学んだことを基にして仕事を進めたいとお礼を言いました。

そして「一年間もお世話になったけれど一度も、食費や宿舎費を払えとおっしゃいません。どうしたらよいでしょう」とお聞きしたのでした。

すると「そんなに喜んでくれるのが嬉しい。それなら二つの約束をして欲しい」とおっしゃるのです。一つは、帰るまでの一カ月間位、経費の話はしないこと。満足したと言ってくれたらそれがわれわれに対する最大のプレゼントだ。

二つ目は、きっと日本にはアジア各国からたくさんの方々が来るだろう。その時、あなたが満足したと同じ思いをアジア各国からやって来る人々にさせてあげて欲しい。こう言われたのです。

私はその気になりましたよ。よし帰ったら何かしないとけない。そういうことが私の原体験にあるのです。

帰国して進めた仕事が十年前までの旭川荘なのです。出掛けた時は旭川荘が開設して九年目。最初に造った三つの施設だけでした。その後のものは、このフランスの体験が大きく影響しています。本格的施設はそれからなんです。

目をつむれば「あの建物のあの場所がパリ大学のあの部分、ここはオランダで勉強したあの部分」とすぐ浮かんでくる。旭川荘での創意工夫を加えたのはもちろんです。独自のものは、今から十年前に始まった大改造の時からとなるのです。

私の恩師であり上司だったのは川崎祐宣先生です。その先生が昭和三十年ごろ中国に行かれます。三木行政知事に招待が来たのですが、国交のない国に知事が行く訳にもいかず、川崎先生にお鉢が回ってきたのです。

二十人くらいの人が行ったのですが、毛沢東、周恩来といった大物に大歓迎されたそうです。それが契機になったのか、昭和六十年ごろ、三人の中国人医師が川崎先生を頼って岡山を訪れるのです。

歓迎宴の席で川崎先生が「お世話

は江草君がするように」とおっしゃって、こちらに回って来たんです。

その時の代表（団長）が、岡山に帰ってたいへんな恩人になるのです。

王希孟先生というのです。公衆衛生の世界では中国ナンバーワンの人です。その下に上海市第一人民病院長の林院長と、上海市民生局副局長の魯昭慶さんがいました。林さんと魯さんは女性です。

後に上海第一人民病院を訪ねたのですが、驚きましたね、ベッド数が三千というのですから。そんな病院長が女性なんです。

その時、お二人の先生の紹介と王団長の推薦があれば、旭川荘は研修生を受け入れましょうということになったのです。それから二十五年が



上海市人民対外友好協会周慕堯前会長と

経つ訳です。

最近調べてみますと、来られた方は千二百人位です。長い方は一年間、短くて一カ月。三、四日来られるのは見学ですから、この数字には入っていません。それを入れると二千五、六百人でしょうか。上海からだけで千二百人位です。

上海の党書記やその令婦人、日本という共同募金会会長のような人も来られました。こんな人が来られれば、何も福祉の話だけではないんです。

上海の農業について勉強された人もいました。ビニールハウスなどを見学され、感心され帰って手掛けたようです。上海のセロリは総社・山手の影響ですよ。

こうしてたくさんの方が来られ、われわれもたくさんの方が行きました。訪中・福祉の翼もその一つです。これまで二十回で二千四百人が行きました。二千四百人が来て二千四百人が行くのです。二度も三度も行く人もいます。

そこで私が思い出すのは、四十年前パリ滞在中に見かけた、フランス人やドイツ人の小、中学生が自転車、来たり行ったりしている交流の姿です。

ドイツとフランスは二度の世界大戦を通じて仇敵といわれた関係でしょう。それが、小学生や中学生の交流から始まって、ついにEUになったでしょう。その原則は、お互いを最もよく理解できる国、お互い兄弟である、大きな家族である、です。

なぜEUがうまくいくかという

と、お互いが価値観を同じくしていること、評価基準を同じくしているからでしょう。教科書問題にしてもドイツとフランスは教科書を一緒に作るのです。

日本と中国、日本と韓国ではとてもできそうにありません。しかし、出来ることからしましょうというところが、要るのではないのでしょうか。そのためにはお互い仲良くすることじゃないですか。

旭川荘の入り口に十メートル位の高さのカリヨンがあるんです。朝、昼、夜演奏する曲目は違うのですが、中国人、韓国人、タイ人と来た人の国によって、必ずそれぞれの国の歌を演奏するんです。

違うんですね。到着してバスから降りた時に自分の国の歌が流れるでしょう。そして、張り切って旗の掲揚台前を通ります。その時、必ず、その時間には到着した人の国の国旗を掲げておきます。

人と人が結びあうことはたいへん大事です。ささやかな努力でもやっているうちに変わるんじゃないでしょうか。

今、旭川荘には三十四カ国から研修生が来ているそうです。デンマークやドイツ、オランダ、ブラジルなどからです。そんな人が一番嬉しいのは、宿舎でいくつかの国の人が同時に合体して研修することだそうです。いろんな交流が出来る、人のつながりも出来ます。

パリに留学していた時のこと。私に食欲がないと言うと「米を食べさ

せたら元気になるんじゃないか」と米を炊いてくれた看護婦さん。そのご飯はというと牛乳で炊き砂糖がたっぷり入れてある、とても食べられないものじゃない。

「おいしい、おいしい」と食べなければいかんでしょう。すると、喜んでくれたと、その次の日も炊いてくれるんです。お菓子も、風月堂のゴーフルに似たものを探してきて「せんべい」だと言います。甘いものは苦手なので「おいしいから部屋に持って帰って食べる」といって部屋に帰り、中のクリームみたいなものを外して食べましたよ。

また、コーヒーカーップも私のだけは違っていて鶴マーク。「鶴だ、日本だ、アジアだ」と言ってくれるのです。あとから聞いたのですが、それを見付けるのにどれだけ苦労をしていたか、という訳です。

そんな親切は忘れられません。だから、今はやって来た人に同じことをしてあげようと思っっているのです。

しかし、最近、中国から来た人が「サイを出したら」「これは田舎者が食べるんだ」、韓国から来た人が「キムチを出すと」「ハンバーガーの方がいい」と食べませんね。

国交とか、国と国との関係と友人の関係は別だということです。東方航空のシートには「和諧中国」と書いてありましたね。

中国は今、高齢者問題で悩んでいます。岡山の高齢化率は二一%位でほぼ全国平均です。七%までが高齢

化社会、一四%になると高齢社会、二二%を超えると超高齢社会で、日本はもうそうなんです。

中国は全体ではまだ良いのですが、上海は超高齢社会、北京は高齢社会になっていくのです。中国共産党も非常な危機感を持っている。そこで、上海で四年間、岡山と友好関係にある江西省の南昌市で今年から、それぞれ介護問題の専門家を養成する教師を育てる学校を開いてきました。

建物はお金をかければ出来ます。ところが日本もそうですが、中国も韓国も建物建設に必死で、人を育てることまで手が回らない。それどころか何を教えたらいのかも分からない。上海では、やっと教員を養成するための先生約二百人の養成を終えたところなんです。南昌はこれから。

こうしてだんだんと広がってきています。しかし、いわゆる志だけやっておったのじゃ間に合わないというところで、中国を代表するような大学も、高齢者問題と取り組もうと言いつ出した。四川省の都江堰市からも熱心な要請があります。

考えてみますと、岡山には、岡崎嘉平太さんがいて、上海には昔、内山書店があった。週れば吉備真備もいました。お互いの交流を考える時には、ぜひ井上靖の「天平の甕」をお読み頂きたいと思えます。

交わるということがどんなに大事なことであるのか、どんなことに気を付けねばならないのか、人によって交わり方がいろいろあるということとを「天平の甕」で痛感しました。

企業でも考えているところは考えられています。異文化の交流ではなくて、多文化の共存ということなんです。そして、本格的交流というものは子供の時代からやらんといかん、学校の先生レベルでも、婦人団体でも、高齢者もやっていいのじゃないか。

一昨年には上海で国際高齢者シンポジウムをやりました。行ってみて私は、その市長、副市長の情熱的取り組み方に感心しました。日本は、何だかんだと言ってみても、錐をもみ込むような一点集中の努力をしてみませんか。手の平でものを押すような努力しかしてないから、やっているようでも深みがない。

最後に一つ。われわれは民間団体です。そこに北京駐在の日本大使が、活動状況を大使館のホームページに載せたいと言って来られるのです。

かつては、工場が進出するとか道路を造るとか、そんなことに関心を持っていたけれども、今はそれだけじゃダメなんだということを、在外公館も感じている、というわけです。

ですから今度、南昌でやる時には大使館からお祝いに行くと言われました。すると、中国側も大使館から来るとなると省長とか党書記が出て来る。こういうことになるのです。だから、もうそこまで来ているのです。岡山県が何か教育に個性があるとするならば、こんなところにも個性があるということをお示し下さったらどうだろうかと思うのです。

ご静聴ありがとうございました。

祝 岡山県日中教育交流協議会設立十周年



上海市人民对外友好協会

日本処長 王 加 新

岡山県日中教育交流協議会設立十周年、おめでとうございます。中日両国青少年の相互訪問・相互交流を促進することを目的として発足した同協議会は、長年にわたって、上海市、江西省をはじめとした中国各地の小、中、高校と実り多い交流を重ねてこられました。ここで、心から尊敬と感謝の意を表します。

振り返ってみれば、上海と岡山県の青少年交流のきっかけは、十二年前、江草安彦、森崎岩之助先生を中心とした日中教育交流促進訪中団の上海高校視察に遡ることができま

す。中日関係の未来は両国の青少年にかかっているという長期的な観点から、両地域の交流の絆を一層強めて行こうということで双方の意見が一致しました。青少年交流がまだ少

ない時期に、いち早くそれに着目したからこそ、文字通り「先見の明」があつたと思われれます。当協会もその中で一役買ったことを大変光栄に感じます。草の根の交流とは、つまるところ、国民間とりわけ未来を担う若い世代間の交流を通じて、相互理解を深めるのが本来の役割ではないかと理解しております。

考えてみれば、中日青少年交流の分野では、中学、高校生交流がよく見られますが、小学生交流がそれほど多くありません。しかし、「中日友好は子供の時代から」という考えを踏まえ、十年ほど前から、当協会の紹介により、上海市威海路第三小学校と岡山県早島町立早島小学校の相互訪問と交流が始まりました。改革開放のお陰で市民の生活水準の向

上にともない、中国の学校、保護者そして小学生たちが国際交流に一層関心を持つようになったのが大きな背景です。初めて日本の土を踏んだ中国の子供たちの顔は期待と緊張が入り混じっていましたが、次第に、受入れられる日本の家庭の親や、小学校の先生たちの親切的態度に打ち解けました。ホームステイを経験してから、ホストファミリーの子供とすっかり仲良しになり、日本語が分からなくても、PSPや漫画などの話題で盛り上がり、話が尽きません。日本の友達とプリクラで撮った個人的な写真で嬉しそうに自慢する中国の子供も多かったものです。いよいよ帰国。名残惜しい中日の子供たちは涙を流しながら再会を約束しました。今度は

日本の小学生たちが上海訪問。再会を喜び合う子供たちの笑顔が印象的です。日本で大変お世話になったから、上海側の学校も子供の家庭も日本の「小さなお客様」へのおもてなしにやる気満々。お土産の店へ案内され、パンダの縫いぐるみを手にした日本の女の子は、「おじいさん、おばあさんに一匹、お父さん、お母さんに一匹」とみんなを笑わせました。子供たちに交流の感想を聞くと、「ホームステイが一番よかった」という返事が多く得られます。相手国の風俗習慣、一般市民の生活に触れ合うことにより、相手国に対する理解が深まったからではないでしょうか。

中日両国の子供たちがそうした交流プログラムを通じて、相手国のことが好きになり、相手国に深い興味を抱くようになったのであれば、この上ない喜びであります。それが今後の中日関係の更なる発展に繋がると信じております。当協会として、これからも岡山県をはじめ、日本の皆様と力を合わせて、青少年交流に全力を挙げてまいります。

二〇一〇年一月二十二日

貴重な国際文化交流事業

岡山県高等学校芸術文化連盟 会長
(岡山県立岡山城東高等学校 校長)

赤堀元美

日中教育交流協議会設立十周年誠に
おめでとうございます。今後ともま
ます充実発展されることを願っており
ます。

岡山県高等学校芸術文化連盟（以下
高芸連と標記）では、日中教育交流協
議会の御協力と御支援により、平成
十三年度から隔年で県内の高校生たち
と、中華人民共和国上海市の高校生た
ちの間で、国際文化交流事業を開始し
ています。

今年度も、予定どおりであれば中華
人民共和国上海市の甘泉外国語中学と
高芸連合唱部門の山陽女子高校との間
で、文化交流事業を実施するはずであ
りました。ところが、思いもよらぬ四
月末以降の新型インフルエンザの世界
的な大流行により派遣団結成の結団壮
行式開催直前に中止を判断した次第で
した。

実は、平成十五年度にも当時流行し
たサーズ（新型肺炎）によって断念し



上海にて合同写真展開催（平成13年度）



岡山県高校生芸術フェスティバル参加（平成19年度）

な文化交流事業による国際交流が充実し、未来の大使となる高校生の人材育成が進められることを願っています。



チボリ公園にて交流コンサート開催（平成17年度）

甘泉外国語中学との間で交流事業がすすめられました。

このように、お互いに文化や伝統の異なる国で育った若者たちの交流が行われることで、理解しあったり、協同精神を養うことができます。そして、将来の異国間の交流を進める意味に於きまして本当に意義深いものであると確信する次第です。今後とも日中教育交流協議会がますます充実発展することにより、高芸連に於いてもこの大切な文化交流事業による国際交流が充実し、未来の大使となる高校生の人材育成が進められることを願っています。

たことがありましたが、結果的には過去三回の実施となり、直近では平成十九年度に高芸連ダンス部門に於いて県内数校の高校生たちと、上海市

■高芸連の文化交流事業の記録（中華人民共和国のみ抜粋）

| 年 度 | 交 流 校 | 派遣部門 | 記 録 |
|--------------|---|-------|---|
| 平成13(2001)年度 | 上海市甘泉中学 | 写真部門 | 団 長/速水延光（玉野光南高校長） 引 率/千原章裕（東岡山工）・白髭三郎（事務局長） 交流高校/水島工業・関西・玉野光南・岡山工業 写真部 計12名 |
| 平成15(2003)年度 | 青陵高校コーラス部と上海市甘泉外国語中学との交流予定であったがサーズ（新型肺炎）流行により中止 | | |
| 平成17(2005)年度 | 上海市甘泉外国語中学 | 合唱部門 | 団 長/後藤文夫（高梁高校長） 引 率/仁科喜代蔵（倉敷青陵）・小寺繁行（事務局長） 交流高校/倉敷青陵高校コーラス部 計14名 |
| 平成19(2007)年度 | 上海市甘泉外国語中学 | ダンス部門 | 団 長/高尾淳司（総社南高校長） 引 率/西原智子（岡山朝日）・井上ゆみ（玉野商業） 交流高校/総社南・総社・高梁・岡山朝日 ダンス部 計13名 |
| 平成21(2009)年度 | 山陽女子高校合唱部と上海市甘泉外国語中学との交流予定であったが新型インフルエンザ流行により中止 | | |

上海と岡山に架ける橋 「STUDENT EXCHANGE」

協議会会長 岡田 浩明



書道授業（平成18年度）

「日本と中国の高校生が相互に訪問交流することにより、相互理解と友好を深め、自己の生き方を深く考える機会とし、あわせてアジアの平和構築の一助にする」との趣旨のもとに、交流は公募により選ぶ岡山県の高校生と上海友協青少年代表（新中高級中学）とで行い、相互訪問とする。訪中生徒は十六人、招聘はその半数の八人、参加生徒の負担は日中ともに一人三万円とす

「STUDENT EXCHANGE in 上海」と名付けた日中青年交流事業は、岡山県日中教育交流協議会が、財団法人福武教育文化振興財団の委託を受け、平成十七年から二十年まで四回にわたって行われた。当協議会は、平成十一年の発足以来、学校等の交流の仲立ち、会報「悠久」の発行、中国の教育事情視察等を行ってきたが、次代を担う青少年の交流事業は、悲願でもあった。

最大の課題であった経費については、森崎岩之助初代会長のご尽力で福武教育文化振興財団から委託費がいただけることとなり、具体的な計画は、黒瀬定生二代目会長により、上海市人民対外友好協会を仲立ちとして進められた。当時はSARSの発生や教科書問題など厳しい状況下であり、黒瀬会長自ら訪中して調査するなど、関係方面と綿密で粘り強い調整が行われた。

訪中―上海で

訪中については、募集人員が二年目から二十人となった他は、四年間ほぼ同様の日程・内容で行った。

四月下旬より岡山県高等学校長協会等を通じて公募、五月末締め切り、六月中旬に面接（一般・英語、希望者には中国語も）と選考会を行って団員を決定し、訪中までに二回の研修会を持った。

訪中は一週間。初日は上海市のホテル泊、二日目から三日間は新中高級中学のゲストハウスに宿泊し生徒との交流を行い、その後一泊二日で蘇州を視察する日程である。

生徒同士の交流はすべて英語で行い、英語・太極拳などの授業体験、生徒座談会、交歓会、上海博物館等見学、ホームビジット等のほぼ全ての活動に中国人生徒も参加し、大変密度の濃いものであった。

参加生徒は、ビルの林立する上海の街と、非常に積極的な新中の生徒に圧倒されながらも、これまでの経験と培った英語力で奮闘し、最後の交歓会では、涙で今後の交流を約束するまでの友情を築き上げた。

招聘―岡山で

上海からは、秋に新中高級中学の生徒を岡山に招聘した。まず県内の高校を訪問して各学校のプログラムで交流し、夏に訪中した生徒とは、土・日を利用して



日中生徒座談会（平成19年度）

倉敷美観地区、直島等を訪問するとともに、生徒の家庭にホームステイし再度交流した。

訪日生徒は美しい岡山の景観に触れるとともに、学校で授業や部活動に参加し、家庭にも入って岡山を満喫し、再び友情を誓い合った。

おわりに

このプロジェクトは、福武教育文化振興財団の助成と共に、受入窓口の上海市人民対外友好協会や新中高級中学、岡山県内の各高等学校、そして引率の先生等多くの方々のご協力で実施できたものである。改めてお礼を申し上げたい。

岡山県から訪中した生徒は二十五校七十五人、招聘した生徒は三十八人を数える。次代を託す日中の生徒諸君は、この経験を生かし、将来、広く国際社会で活躍するなど、世界平和や友好親善に寄与してくれるものと確信している。

なお、この事業は平成二十二年から大連に所を移し、発展的に継承されることとなった。

年表でみる十年

| 年 | 月 | 日 | 項目 | 内容 |
|-------|-------|----------|-------------------------|---|
| 平成10年 | 12月 | 22日～25日 | 岡山県日中教育交流調査団 | 上海市を訪問。江草安彦団長、森崎氏ら4名。 |
| 平成11年 | 3月 | 13日 | 岡山県日中教育交流協議会設立総会 | 岡山県生涯学習センターに約50名が出席。会長に森崎岩之助、名誉会長に江草安彦氏を選出。 |
| | 3月 | 30日～4月1日 | 上海市教育視察団来岡 | 上海市教育委員会副処長朱世鋒団長ら5名。 |
| 平成12年 | 5月～7月 | | 日中教育交流に関する実態調査実施 | 県下幼・小・中・高・特（当時）教育委員会1006通送付80%の回答率。 |
| | 10月 | 26日～29日 | 日中教育交流促進訪問団 | 江草団長、戸村、桑原、古市、松井。甘泉中学に日本語図書50冊贈呈。 |
| 平成13年 | 2月 | | 「悠久」創刊号発行 | 交流実施校の発表（早島小、総社南、後楽館高校など） |
| | 3月 | 4日 | 日中教育交流発表会 | 実質第1回総会（生涯学習センター） |
| 平成14年 | 6月 | 3日 | 役員会 | 森崎団長等10名。上海市教育委員会、新中高級中学甘泉中学、中心小学などを訪問。 |
| | 6月 | 13日～16日 | 第二回中国教育事情調査団 | 上海市人民対外友好協会（姚全福常務副会長）と署名 |
| 平成15年 | 6月 | 13日～16日 | 岡山県高等学校芸術文化連盟が上海市と交流協定書 | |
| | 6月 | 13日～16日 | 岡山県高等学校芸術文化連盟が上海市と交流協定書 | |
| 平成16年 | 6月 | 13日～16日 | 岡山県高等学校芸術文化連盟が上海市と交流協定書 | |
| | 6月 | 13日～16日 | 岡山県高等学校芸術文化連盟が上海市と交流協定書 | |

▼平島小学校、南昌と交流（2000年）



▼高芸連上海と交流協定調印（2000年）



▼協議会設立総会（2000年）



▲日中女性フォーラム（2002年）



▲陵南小学校、洛陽と交流（2000年）



▲第1回教育事情調査団（2000年）



日中教育交流 実態調査統計資料

日中教育交流に関する実態調査

2009 調査

“現在交流している”が18校！
“今後交流したい”が8校！

学校教育における日中教育交流

日中教育交流協議会の節目である10年を迎え、岡山県内の学校での海外教育交流についてアンケート結果がまとまりました。10年前に実施した同様のアンケート結果と比較して検討するという視点で、考え及び感想をまとめました。

今回の結果の特徴は、「中国と交流している。または、したことがある。」と回答した学校数は、前回は上回っているものの、この10年間の社会情勢の変化に伴い、日中の交流が大きく発展したにも関わらず増加数が少ないこと、今後交流したいと希望している学校数は大きく減少し、逆に今後も予定なしとの回答された学校の割合が増えていることが、あります。

1つの考えとしては、この要因としては、交流の際にメインとなる相互訪問や、歓迎行事の費用負担が伴うことです。また、教員の引率は、海外への引率が希なこともあり、公務と認められない、つまり出張とならないことがあることです。公務と認められない場合、児童・生徒を引率しながら自身は年次休暇を取得して参加しているという奇妙なことが起こっています。また、保護者負担も大きく、PTAや地域からの全面的な協力があって交流行事が実施できています。こうした様々な制約がありながら「子どもたちに国際交流の素晴らしさを体験させたい。」というみんなの思いの中で行われている実態があります。これ以上の負担を強いることはできないと考える学校が増えるのはやむを得ないかも知れません。

では、どのような理解や支援があればこうした交流が進むのでしょうか。修学旅行の行き先に高校では海外が含まれ、中学校も沖縄方面が増えている中、教育交流においても公務として認めてほしいと願っています。また、新型インフルエンザなどの世界的流行がいつ発生してもおかしくない現代においては、児童・生徒が集団で海外へ渡航することがベストな交流方法なのか、厳しい経済状況の中、公的負担がどこまで認められるのかなどの問題もあります。こうした中、今後は、今まで以上にインターネットや動画を通じての交流も視野に入れ、交流のあり方も変容していくことと思われまます。

いずれにしても国際化が進む中、学校教育においても海外交流を経験したり学ぶ機会を作ることは大変重要です。何らかの形でこうした学びの機会を是非作っていただきたいと思います。

最後に、交流とは直接関係はありませんが、10年前と大きく変わったものが、アンケートの回収率の低さです。また、自由記入欄からは学校現場の悲鳴のような声が聞こえてきます。「これ以上の負担はできない。」「発達障害の子どもへの対応や学力保障に疲れ果てている。」などの率直な声を聞くと海外交流よりも学校の負担軽減の方策が重要ではないかと思えます。少しでも負担が軽くなれば海外交流などの試みも増えてくるのかも知れません。

協議会理事 大川 泰 栄

今回の調査は、昨年7月に悠久発送と同時に小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、市町村教育委員会に調査票を配布し、集計したものであります。ご多忙の中、ご回答を寄せていただきました各位に対し、改めてお礼申し上げます。

● 中国と交流していますか

| | 年度 | 小学校 | | 中学校 | | 高等学校 | | 特別支援学校 | | 市町村教育委員会 | | 合計 | |
|--------------|-------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|--------|--------|----------|--------|-------|--------|
| | | 数 | 割合 | 数 | 割合 | 数 | 割合 | 数 | 割合 | 数 | 割合 | 数 | 割合 |
| 調査票送付数 | 2009 | 427 | | 171 | | 93 | | 13 | | 28 | | 732 | |
| | 1999 | 443 | | 172 | | 108 | | 13 | | 77 | | 1006 | |
| 回収数 | 2009 | 185 | | 76 | | 48 | | 10 | | 11 | | 330 | |
| | 1999 | 307 | | 124 | | 71 | | 9 | | 34 | | 545 | |
| 回収率 | 2009 | 43.3% | | 44.4% | | 51.6% | | 76.9% | | 39.3% | | 45.1% | |
| | 1999 | 69.3% | | 72.1% | | 65.7% | | 69.2% | | 44.2% | | 54.2% | |
| 現在交流している | 2009 | 2 | 1.08% | 5 | 6.58% | 5 | 10.42% | 1 | 10.00% | 5 | 45.45% | 18 | 5.45% |
| | 1999 | 17 | 5.54% | 6 | 4.84% | 6 | 8.45% | | | 3 | 8.82% | 32 | 5.87% |
| 以前、交流したことがある | 2009 | 10 | 5.41% | 1 | 1.32% | 6 | 12.50% | | | 1 | 9.09% | 18 | 5.45% |
| | 1999 | 11 | 3.58% | | | 2 | 2.82% | | | 2 | 5.88% | 15 | 2.75% |
| 今後、交流したい | 2009 | 3 | 1.62% | 3 | 3.95% | 1 | 2.08% | | | 1 | 9.09% | 8 | 2.42% |
| | 1999 | 51 | 16.61% | 21 | 16.94% | 14 | 19.72% | 1 | 11.11% | 4 | 11.76% | 91 | 16.70% |
| 今後交流予定なし | 2009 | 170 | 91.89% | 67 | 88.16% | 36 | 75.00% | 9 | 90.00% | 4 | 36.36% | 286 | 86.67% |
| | 1999 | 224 | 72.96% | 97 | 78.23% | 49 | 69.01% | 7 | 77.78% | 25 | 73.53% | 402 | 73.76% |
| その他 | 2009* | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 1999 | 4 | 1.30% | | | | | 1 | 11.11% | | | 5 | 0.92% |

(%)は、回収数に対する回答数の割合を示しています)

*2009年度は選択の設定なし

① 「現在交流している」と回答

| 交流地域名 | 小 | 中 | 高 | 特 | 教 | 合計 |
|-------------|---|---|---|---|---|----|
| 1 北京市 | | | | | | |
| 2 上海市 | | 2 | 1 | | | 3 |
| 3 南昌市 (江西省) | | | | | | |
| 4 九江市 (江西省) | | | | | | |
| 5 淮安市 (江蘇省) | | 1 | | 1 | 1 | 3 |
| 6 鎮江市 (江蘇省) | 1 | | | | 1 | 2 |
| 7 信陽市 (河南省) | | | | | | |
| 8 洛陽市 (河南省) | | | 1 | | | 1 |
| 9 その他 | | | | | | |
| 西安市 | | 1 | | | 1 | 2 |
| 山東省魯能卓球倶楽部 | | | 1 | | | 1 |
| 台湾 | 1 | | | | | 1 |
| 大連市 (遼寧省) | | | 1 | | | 1 |
| 高安市 (江西省) | | | | | 1 | 1 |
| 西寧市 (青海省) | 1 | | | | | 1 |
| 温嶺市 (浙江省) | | | 1 | | | 1 |
| その他 | | | | | 1 | 1 |
| 開始年 | 小 | 中 | 高 | 特 | 教 | 合計 |
| 平成2年 | | 1 | | | | 1 |
| 平成5年 | | | | 1 | 2 | 3 |
| 平成6年 | | 1 | | | | 1 |
| 平成9年 | | | | | 1 | 1 |
| 平成11年 | | | 1 | | | 1 |
| 平成12年 | | 1 | | | | 1 |
| 平成13年 | | | | | 1 | 1 |
| 平成14年 | | | 1 | | | 1 |
| 平成15年 | | 1 | 1 | | | 2 |
| 平成19年 | | 1 | | | 1 | 2 |
| 平成20年 | 2 | | 1 | | | 3 |

| 交流理由 | 小 | 中 | 高 | 特 | 教 | 合計 |
|----------------------|---|---|---|---|---|----|
| 1 行政・団体等の紹介 | 2 | 5 | 2 | 1 | 2 | 12 |
| 2 歴史的・文化的・人的つながり等を背景 | | 3 | 3 | 1 | 2 | 9 |
| 3 修学旅行等の学校の取り組み | | | 1 | | 1 | 2 |
| 4 中国人・帰国子女の受け入れ | | | | | | |
| 5 その他 | 1 | | 2 | | | 3 |

| 交流内容 | 小 | 中 | 高 | 特 | 教 | 合計 |
|----------------------|---|---|---|---|---|----|
| 1 作品交換、資料交換、文通など | 1 | | | 1 | | 2 |
| 2 代表団がとどき訪問 | | 2 | 1 | | 2 | 5 |
| 3 定期的な相互訪問 | 1 | 5 | 1 | 1 | 3 | 11 |
| 4 ボランティア活動、語学研修等への参加 | | | 2 | | | 2 |
| 5 その他 | | | | | | |
| 授業・施設見学、生徒と交流 | | 1 | | | | 1 |
| 就学生の受入 | | | 1 | | | 1 |
| 日本の大学進学目的の生徒受入れ | | | 1 | | | 1 |

| 今後の交流計画 | 小 | 中 | 高 | 特 | 教 | 合計 |
|----------------------|---|---|---|---|---|----|
| 1 作品交換、資料交換、文通など | 1 | 1 | | 1 | | 3 |
| 2 代表団がとどき訪問 | | 1 | 2 | | 2 | 5 |
| 3 定期的な相互訪問 | 1 | 5 | 1 | 1 | 3 | 11 |
| 4 ボランティア活動、語学研修等への参加 | | | 2 | | | 2 |
| 5 その他 | | | 1 | | | 1 |
| 6 特に計画なし | | | | | | |

② 「以前交流していた」と回答

| 交流地域名 | 小 | 中 | 高 | 特 | 教 | 合計 |
|-------------|---|---|---|---|---|----|
| 1 北京市 | | | 1 | | | 1 |
| 2 上海市 | | | 2 | | | 2 |
| 3 南昌市 (江西省) | 1 | | | | 1 | 2 |
| 4 九江市 (江西省) | 1 | | | | 1 | 2 |
| 5 淮安市 (江蘇省) | | | | | | |
| 6 鎮江市 (江蘇省) | | | | | | |
| 7 信陽市 (河南省) | 2 | | | | | 2 |
| 8 洛陽市 (河南省) | 3 | | | | | 3 |
| 9 その他 | | | 1 | | | 1 |
| 西安市 (陝西省) | 1 | | | | | 1 |
| 高安市 (江西省) | 1 | | | | | 1 |
| 雲南省 | | 1 | | | | 1 |
| 白水県 (陝西省) | | | 1 | | | 1 |

| 交流理由 | 小 | 中 | 高 | 特 | 教 | 合計 |
|----------------------|---|---|---|---|---|----|
| 1 行政・団体等の紹介 | 9 | 1 | 3 | | 1 | 14 |
| 2 歴史的・文化的・人的つながり等を背景 | 1 | | 2 | | | 3 |
| 3 修学旅行等の学校の取り組み | | | | | | |
| 4 中国人・帰国子女の受け入れ | | | 1 | | | 1 |
| 5 その他 | | | 1 | | | 1 |

| 交流内容 | 小 | 中 | 高 | 特 | 教 | 合計 |
|----------------------|---|---|---|---|---|----|
| 1 作品交換、資料交換、文通など | 6 | 1 | | | 1 | 8 |
| 2 代表団がとどき訪問 | 6 | | 3 | | 1 | 10 |
| 3 定期的な相互訪問 | 1 | | | | | 1 |
| 4 ボランティア活動、語学研修等への参加 | | | 1 | | | 1 |
| 5 その他 | | | 1 | | | 1 |
| 学校行事の一環としての定期的な訪問 | | | | | | |
| インターネットを活用した交流 | | | | | | |

| 交流の再開 | 小 | 中 | 高 | 特 | 教 | 合計 |
|----------------|---|---|---|---|---|----|
| 1 再度交流を考えている | | | 2 | | | 2 |
| 2 再度の交流は考えていない | 7 | 1 | 1 | | | 9 |
| 3 どちらともいえない | 3 | | 3 | | 1 | 7 |

| 再度交流したい場合の地域名 | 小 | 中 | 高 | 特 | 教 | 合計 |
|---------------|---|---|---|---|---|----|
| 1 北京市 | | | | | | |
| 2 上海市 | | | 1 | | | 1 |
| 3 南昌市 (江西省) | | | | | | |
| 4 九江市 (江西省) | | | | | | |
| 5 淮安市 (江蘇省) | | | | | | |
| 6 鎮江市 (江蘇省) | | | | | | |
| 7 信陽市 (河南省) | | | | | | |
| 8 洛陽市 (河南省) | | | | | | |
| 9 その他 | | | | | | |
| 特定なし | | | 1 | | | 1 |

③ 「今後交流したいと」 回答

| 交流地域名 | 小 | 中 | 高 | 特 | 教 | 合計 |
|-------------|---|---|---|---|---|----|
| 1 北京市 | | | | | | |
| 2 上海市 | 1 | | 1 | | | 2 |
| 3 南昌市 (江西省) | | | | | | |
| 4 九江市 (江西省) | | | | | | |
| 5 淮安市 (江蘇省) | 1 | | | | | 1 |
| 6 鎮江市 (江蘇省) | 2 | | | | | 2 |
| 7 信陽市 (河南省) | | | | | | |
| 8 洛陽市 (河南省) | | | | | | |
| 9 その他 | | | | | | |
| ハルビン (黒龍江省) | | 1 | | | | 1 |
| 特定なし | | 2 | | | 1 | 3 |

| 交流理由 | 小 | 中 | 高 | 特 | 教 | 合計 |
|----------------------|---|---|---|---|---|----|
| 1 行政・団体等の紹介 | 1 | | 1 | | | 2 |
| 2 歴史的・文化的・人的つながり等を背景 | 2 | 1 | | | | 3 |
| 3 修学旅行等の学校の取り組み | | | | | | |
| 4 中国人・帰国子女の受け入れ | | 1 | | | | 1 |
| 5 その他 | | 1 | | | 1 | 2 |

④ 交流予定なしと回答

| 中国以外と交流している国 | 小 | 中 | 高 | 特 | 教 | 合計 |
|--------------|-----|----|----|---|---|-----|
| 1 オーストラリア | 1 | 7 | 2 | | 2 | 12 |
| 2 アメリカ | 2 | 3 | 4 | | 2 | 11 |
| 3 ネパール | 1 | | | | | 1 |
| 4 韓国 | 2 | | 2 | | | 4 |
| 5 カナダ | | 1 | 1 | | | 2 |
| 6 モンゴル | | | | | | |
| 7 イギリス | | 1 | 1 | | | 2 |
| 8 シンガポール | | 1 | | | | 1 |
| 9 ドイツ | | | | | | |
| 10 フィリピン | 1 | | | | | 1 |
| 11 マレーシア | | | | | 1 | 1 |
| 12 その他 | | | | | | |
| スリランカ | 1 | | | | | 1 |
| デンマーク | | 1 | | | | 1 |
| ニュージーランド | 1 | 2 | | 1 | | 4 |
| バングラディッシュ | | 1 | | | | 1 |
| ベトナム | | 1 | | | | 1 |
| ケニア | 1 | | | | | 1 |
| 台湾 | | | 1 | | | 1 |
| ラオス | 1 | | | | | 1 |
| 交流していない | 147 | 42 | 20 | 7 | 1 | 217 |

⑤ 岡山県日中交流教育協議会についての回答

| 知名度 | 小 | 中 | 高 | 特 | 教 | 合計 |
|---------------|----|----|----|---|---|-----|
| 1 名称と内容を知っている | 51 | 19 | 34 | 5 | 3 | 112 |
| 2 名称のみ知っている | 77 | 31 | 9 | 5 | 6 | 128 |
| 3 全く知らなかった | 54 | 24 | 3 | 0 | 2 | 83 |

| 知っている内容 | 小 | 中 | 高 | 特 | 教 | 合計 |
|-----------------------------|----|----|----|---|---|-----|
| 1 校長会、PTA、国際交流団体等で構成 | 18 | 7 | 15 | 3 | 2 | 45 |
| 2 悠久の発行と無償配布 | 63 | 20 | 32 | 6 | 3 | 124 |
| 3 教育事情調査団の派遣 | 23 | 9 | 28 | 4 | 3 | 67 |
| 4 STUDENT EXCHANGE in 上海の実施 | 3 | 2 | 25 | 1 | 1 | 32 |
| 5 交流校の紹介 | 20 | 4 | 7 | 3 | 1 | 35 |
| 6 その他 | 1 | | | | | 1 |

| 再度交流した場合の交流内容 | 小 | 中 | 高 | 特 | 教 | 合計 |
|----------------------|---|---|---|---|---|----|
| 1 作品交換、資料交換、文通など | | | | | | |
| 2 代表団がとどき訪問 | | | 1 | | | 1 |
| 3 定期的な相互訪問 | | | | | | |
| 4 ボランティア活動、語学研修等への参加 | | | 1 | | | 1 |
| 5 その他 | | | | | | |
| 6 特定なし | | | | | | |

| 再度の交流を考えていない理由 | 小 | 中 | 高 | 特 | 教 | 合計 |
|-----------------------|---|---|---|---|---|----|
| 1 余裕がないので | 6 | | 1 | | | 7 |
| 2 現在のところ結論を出していないので | 2 | 1 | | | | 3 |
| 3 他の国と交流しているのでは | | | | | | |
| 4 教委・市町村が実施していないので | 1 | | | | | 1 |
| 5 学区内の在住外国人と交流しているのでは | | | | | | |
| 6 国内の学校と交流しているのでは | | | | | | |
| 7 その他 | | | | | | |

| 交流内容 | 小 | 中 | 高 | 特 | 教 | 合計 |
|----------------------|---|---|---|---|---|----|
| 1 作品交換、資料交換、文通など | 1 | 2 | | | | 3 |
| 2 代表団がとどき訪問 | | 1 | | | | 1 |
| 3 定期的な相互訪問 | 2 | 1 | | | | 3 |
| 4 ボランティア活動、語学研修等への参加 | | 1 | | | | 1 |
| 5 その他 | | | | | | |
| インターネットを活用した交流 | | 1 | | | | 1 |
| 6 特定なし | | 1 | 1 | | 1 | 3 |

| 開始年 | 小 | 中 | 高 | 特 | 教 | 合計 |
|-------|---|---|---|---|---|----|
| 平成21年 | | 1 | | | | 1 |
| 平成22年 | 1 | 1 | | | | 2 |
| 未定 | 1 | 2 | 1 | | 1 | 5 |

| 交流内容 | 小 | 中 | 高 | 特 | 教 | 合計 |
|----------------------|---|---|---|---|---|----|
| 1 作品交換、資料交換、文通など | 5 | 2 | 3 | | 1 | 11 |
| 2 代表団がとどき訪問 | 3 | 2 | 1 | 1 | | 7 |
| 3 定期的な相互訪問 | 1 | 7 | 6 | | 2 | 16 |
| 4 ボランティア活動、語学研修等への参加 | 1 | 4 | 3 | | 1 | 9 |
| 5 その他 | 2 | 5 | 4 | | | 11 |

| 中国との交流を考えていない理由 | 小 | 中 | 高 | 特 | 教 | 合計 |
|-----------------------|-----|----|----|---|---|-----|
| 1 余裕がないので | 117 | 43 | 21 | 4 | 1 | 186 |
| 2 現在のところ結論を出していないので | 39 | 10 | 6 | 3 | 1 | 59 |
| 3 他の国と交流しているのでは | 8 | 14 | 7 | 1 | 3 | 33 |
| 4 教委・市町村が実施していないので | 14 | 12 | | 1 | | 27 |
| 5 学区内の在住外国人と交流しているのでは | 4 | 1 | 1 | | | 6 |
| 6 国内の学校と交流しているのでは | 7 | 1 | | 3 | | 11 |
| 7 安全面等について不安がある | 8 | 3 | 4 | | | 15 |
| 8 その他 | 11 | 6 | 7 | 1 | 1 | 26 |

| 要望 | 小 | 中 | 高 | 特 | 教 | 合計 |
|-----------------|----|----|----|---|---|----|
| 1 国際交流教育の資料の提供 | 25 | 14 | 7 | 2 | 3 | 51 |
| 2 交流都市の情報提供 | 6 | 5 | 4 | | 1 | 16 |
| 3 訪問時の具体的な世話 | 4 | 3 | 3 | | | 10 |
| 4 通訳の紹介、派遣 | 2 | 2 | 2 | | 2 | 8 |
| 5 教育交流校の実情の情報提供 | 26 | 13 | 14 | 2 | 1 | 56 |
| 6 その他 | 14 | 5 | 3 | 1 | | 23 |

協議会事務局からのお知らせ

岡山県日中教育交流協議会十周年記念行事

協議会は昨年の総会において下記の十周年記念行事を決定し逐次実施してきました。その概括を報告致します。

1. 実態調査（平成21年7月～12月）

小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、市町村教育委員会に対し、中国との教育交流を中心にアンケートを実施。協議会が発足した十年前に実施した調査との比較論評を理事の大川さんをお願いした。教育行政、学校現場、国際情勢、の変化がつづさに表れている。今後の国際理解教育を展望していく上で参考になる貴重な調査データとなった。調査にご協力いただいた方々に改めてお礼申し上げます。

2. 記念訪中団（平成21年9月19日～26日）

岡山県日中懇話会（会長－森崎岩之助）との共催で実施し、22名の参加者を得て、上海、洛陽、西安、北京を回り、観光ツアーでは決して味わせない、交流と友好を確認する意義ある訪問団となった。特に岡山市と友好都市関係にある洛陽市では人民政府の温かい歓迎を受け一同大いに感激した。この訪中報告については30号に。

3. 講演会（平成21年11月28日）

協議会の呼びかけ人である名誉会長の江草安彦先生を講師に、百名の聴衆を得て実施された。ちょうど、十二月には江草先生が永年の日中交流への功績を評価され、「人民友誼貢献賞」を受賞することが決まっており、時宜を得た中身のある講演となった。

4. 悠久特集号の発行（平成22年3月）

この号で悠久は31号となる。中国に特化して交流をしている教育団体として全国的にもユニークな存在である本協議会が、その存在を知ってもらう手段としてこの「悠久」の果たす役割は少なくない。これからも岡山と中国との教育交流を広報していきたい。

5. 募金活動（平成21年7月～12月）

昨年7月に趣意書を作成し、各方面にお願いし、12月末日にてメ切とした。当初目標としていた20万円はあっという間に突破し、現在37.7万円となっている（寄付者一覧一別記）。特に、各経済団体様には快くご厚志をお寄せ頂き、こころより感謝申し上げます。

《ご寄付いただいた方々》

【団体】

岡山県経済団体連絡協議会 座長 中島博、ワコースポーツ・文化振興財団理事長 吉岡洋介、岡山県商工会議所連合会、岡山県商工会連合会、岡山県中小企業団体中央会、岡山県高等学校長協会、岡山県中学校校長会、岡山県小学校校長会、岡山県私学協会、岡山県専修学校各種学校振興会、岡山県高等学校芸術文化連盟、岡山県立岡山操山高等学校、岡山県立倉敷天城高等学校、早島町立早島小学校、江原積善会

【個人】

板野 美佐子、今井 康好、江草 安彦、大川 泰栄、岡田 浩明、片岡 和男、黒瀬 定生、末光 茂、武泰 稔、綱嶋 四郎、新井 悟、廣本 勝裕、森崎 岩之助、吉田 雄平（敬称略、五十音順）

寄付金総額 377,000円

この号の発行を持って、十周年記念行事は無事終了ということになるが、交流は進行中である。来年度からの高校生交流も新たに大連との交流を視野に準備が始まる。次の時代の日中交流の担い手である青少年の育成に多少なりとも役立てるよう事務局として真摯に取り組んでいきたい。

（協議会事務局長 松井 三平）

協議会事務局 〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階
電話：086-225-5083 FAX：086-225-5041
http://www.oka-rizhongyouxie.jp/index_O4.htm
メール：oknittyu@yahoo.co.jp

担当：松井、平野

旭川荘厚生専門学院

●旭川キャンパス

児童福祉科
第一看護科 第二看護科
〒703-8560 岡山市北区祇園866
電話(086)275-0145
FAX(086)275-3283

●吉井川キャンパス

介護福祉科 福祉研究科
精神保健福祉科
〒704-8126 岡山市東区西大寺浜610
電話(086)944-6911
FAX(086)944-6922



岡山商科大学孔子学院

21世紀はアジアの時代、中国語を学ぶ絶好のチャンスです。
中国政府認定講師による中国語講座開催中!

☆HSK3級合格を目指す長期生コース
15週学習を通じて、2010年3月・6月のHSK試験(中国語能力認定試験)3級合格を目指します!
※会社や団体への出張講座も開催中!

●お問い合わせ/お申し込みは

岡山商科大学孔子学院 〒700-8601
岡山市北区津島京町2丁目10-1
TEL 086-252-0642 FAX 086-255-6947
<http://www.osu.ac.jp>

中国語講座日程(2009年後期)

| クラス | 曜日 |
|-----|-----------|
| 入門Ⅰ | 水(昼・夜) |
| 入門Ⅱ | 火・木(夜) |
| 初級Ⅰ | 金(夜) |
| 初級Ⅱ | 火(夜)・水(昼) |
| 上級Ⅰ | 木(夜) |

学校法人 中国学園

中国学園大学

●現代生活学部人間栄養学科 ●子ども学部子ども学科 ●大学院(現代生活学研究科)

中国短期大学

●総合生活学科 ●保育学科 ●英語コミュニケーション学科
●音楽科 ●情報ビジネス学科 ●専攻科

〒701-0197 岡山市北区庭瀬83番地 TEL086-293-1100 FAX086-293-3993
<http://www.cjc.ac.jp/> E-mail gakusei2@cjc.ac.jp

岡山理科大学附属 中学校 中高一貫コース!



学校法人 加計学園 岡山理科大学附属中学校
〒700-0005 岡山市北区理大町1番1号
TEL : (086) 256-8517 FAX : (086) 256-8518
学校法人 加計学園 中高入試広報室
TEL : (086) 256-8527 FAX : (086) 256-8526
E-mail : kouho@ridaifu.ed.jp



 (財)全国高等学校体育連盟協賛 インターハイ協賛
 (財)日本中学校体育連盟推薦 (財)日本中学校体育連盟シボルマーク付

kankō E L L E MICHEL KLEIN
カシヨースター・カシヨ
Sprinter Reebok **SPALDING**
TRUE TO THE GAME

OZAKI

尾崎商事株式会社 岡山営業所
〒701-0206 岡山県岡山市南区山田2316-28
 TEL 086(292)8255
 FAX 086(292)8266

尾崎商事株式会社 <http://ozaki.jp/>
本社 〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町15番1号 岡山リットシティビル5F
 お客様相談室 0120-712983

赤ちゃんからお年寄りまで
一人ひとりの「よく生きる」のために。



事業領域

教育・生活・シニア・介護・語学・
グローバル人材教育

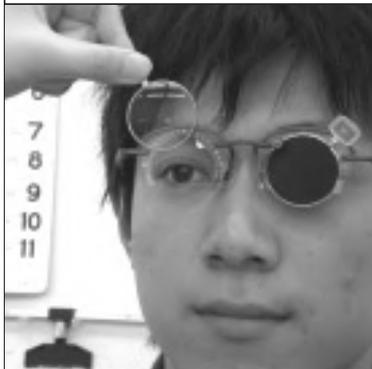
くわしくはホームページをご覧ください。

<http://www.benesse-hd.co.jp/>

株式会社ベネッセホールディングス

岡山本社 〒700-0807 岡山県岡山市北区南方3-7-17
 東京本部 〒206-0033 東京都多摩市落合1-34

Benesseは、ラテン語の「Bene(よく)」と「esse(生きる)」を一語にした造語です。



学校法人 志学学園／眼鏡技術専門学校

ワールド オプティカル カレッジ

メガネに関する「専門知識」と「最新技術」を修得した
スペシャリスト 眼鏡技術者を育成

第一眼鏡科：高校卒業以上 3年制

第二眼鏡科：専修学校・短期大学卒業以上 2年制

(学校見学は随時受付けております)

〒703-8282 岡山市中区平井6-6-11 TEL:086-272-5566 FAX:086-272-4422 0120-88-8233
<http://www.woc.ac.jp> E-mail woc@woc.ac.jp

おかげさまで20周年!

アジア・コミュニケーションズはあなたのツアーデスク!

- 岡山発着航空機の手配いたします!
中国東方航空で上海・大連・北京へ!
大韓航空で韓国ソウルへ、仁川空港経由で中国各地へ!
- お得なパッケージツアー (上海・大連・青島・など)
- 特徴あるこだわりのツアー
シルクロード、チベット、雲南、内蒙古など
皆様のご要望に沿った旅行企画をいたします。
安心の添乗員同行ツアーです
- 日中教育交流のサポート
企画から旅行実施、添乗までサポートします。

○お気軽にお問合せ下さい



 株式会社アジア・コミュニケーションズ
ASIA.COM 観光庁長官登録旅行業第1816号 ©JATA正会員 IATA公認
 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル4F (〒700-0902)
 TEL (086) 222-7722 FAX (086) 222-7732
<http://www.asicom.co.jp> Eメール info@asicom.co.jp



岡山県日中教育交流協議会

岡山県日中教育交流協議会 会報 『悠久』 第31号

発行：平成22年3月

発行者：岡山県日中教育交流協議会 編集委員会

〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階

TEL (086) 225-5083 FAX (086) 225-5041

印刷所：旭総合印刷株式会社